

山行報告

■六甲山系 高雄山(476m)ドントリッジ

〈アルプ山行〉

- 日 程：4月11日(土)
- 参加者：L尾内 SL須増 尾越 乙坂 河崎 土井 春本 平井
- 行動記録：新神戸駅 7:55 発～登山口公衆トイレ前(ストレッチ) 8:25 発～市ケ原(8:45 着)
9:00 発～高雄山(9:45 着) 9:55 発～分水嶺越(ガードレール) 10:29 発～北ドントリッジ 10:40 発～展望台(昼食) (11:30 着) 12:00 発～再度山(13:35 着) 13:40 発～城山(14:45 着) 14:50 発～新神戸駅(15:25 着)

◆H.Eドントさんのリッジラインを歩く

尾越

今回の山行は高雄山の急登を登り南ドントリッジ北ドントリッジの痩せ尾根の岩場を歩くスリリングなマイナールートだ。高雄山の登山口は市ケ原の木の橋を渡って右手に道標が立っているが高雄山を目的に登ることは今までになかった。南北ドントリッジは一般的にあまり歩かないコースのようだ。急登、痩せ尾根と岩場が不安だったが届いた計画書にはさらに再度山と城山が追加された。当初4時間30分の行程が4時間増え8時間40分となり、帰路「学習の森バス停」からバスの利用は可能とのことだった。全ての行程が歩き通せるのかとドキドキしながら当日を迎えた。

新神戸駅から土曜日にしては静かな市ケ原までのハイキング道を歩いた。前日の雨で布引の滝や川は水量が多く迫力があつた。30分ほど歩くと汗ばむほどの天気の良い日だ。市ケ原で休憩後、第一関門の高雄山の急登はリーダーの歩調が程よく前日の雨で水分を含んだ土が多少滑



り止めになり歩きやすく山頂には予定より早い到着となった。道標となる石柱が登山道に現れたことで南ドントリッジに入ったことを知った。南ドントリッジの尾根筋では小鳥の声に春を感じ、桜の花びらが落ちた花の道を歩いた。石柱には神戸の文字が刻まれ上部に進む方向が彫られていた。車の入らない舗装道路に下りたところが分水嶺越となる。ここから北ドントリッジに入るが登山口の目印は古いガードレールの隅に「北ドントリッジの登り口」と小さく書かれているとの情報だった。ガードレールに沿った坂道を登っていたリーダーを見つけ、皆安堵した。登山口を入ると急登が始まり木につかまりながら登る。石柱の続く北ドントリッジの痩せ尾根は岩場のアップダウンがありその度リーダーから「上りです」「下りです」と何度も繰り返し知らせてもらい心準備が出来た。後半は苔むした大岩の上に乗る場面が2,3回あり慎重に足を置き緊張感が続いた。メンバーからは「面白かった」

との感想があり今回の山行はアルプ山行として楽しめたと思う。森林植物園西口あたりで昼食を摂り学習の森、修法ヶ原池を経て再度山に登り大龍寺を通過し、城山へ向かった。城山山頂には滝山城址の遺構があり新神戸駅への下山道はメインの布引の滝への道とは違い物静かな道だった。布引ハーブ園へ行き交うロープウェイを見上げながら無事に新神戸駅へ下山した。当初の予定より1時間以上早く7時間30分で行程を終えた。

久しぶりにアルプ山行に参加されたメンバーとの交流も出来て有意義な山行になった。バラエティーに富んだ計画と、前向きなリーダーに拍手でした。参加メンバーのみなさま、ありがとうございました。

■交流ハイク 六甲山系 甲山(かぶとやま)(309m)



●日 程：4月12日(日)

●参加者：1班 L 杉井(西) SL 大野(西) 浜上(西) 岡村(西) 嶋川(西) 大向(H) 藤井(H)
梅(明) 池田 石堂 須増

2班 L 水谷(西) SL 橋本(西) 太田(西) 井上(西) 藤本(西) 矢崎(H) 大熊(明)
黒本 砂川(延) 高井 古澤

3班 L 西岡(西) SL 樋野賀(西) 三浦(西) 深山(西) 宮井(西) 野瀬(H) 迎(明)
尾内 田坂 春本 安田

*カッコ内の西は西宮山岳会、HはHCはりま、明は明石山の会です。

●行動記録：阪急甲陽園駅 9:55 発～西山公園(10:00 着) 10:25 発～銀水橋(10:35 着)～北山ハイキングコース入口(10:40 着)～北山公園ボルダー群(11:00 着)～池の花見公園(11:50 着) 11:55 発～北山緑化植物園(12:00 着) 12:20 発～北山貯水池(昼食)(12:45 着) 13:20 発～甲山登山口(13:30 着)～甲山(13:45 着) 13:50 発～神呪寺(14:05 着) 14:15 発～甲山森林公園(14:35 着) 15:30 発～展望台(15:45 着)～地すべり資料館(16:00 着)～関西学院大学(16:10 着)～学園花通り(16:20 着)～阪急甲東園駅(16:40 着)

◆西宮山岳会主催の交流ハイケ「甲山」に参加して

安田

4月12日（日）集合場所の阪急甲陽園駅へ行く事になったのですが、全く甲陽園方面に行った事が無かったので一人では不安でした。一緒に行こうと参加者同士で打ち合わせしてJRから阪神電鉄に乗り換え、上手く集合場所へ行くことができました。駅前ではすでに西宮山岳会・明石山の会・HC はりまさん達が集まっておられ賑やかです。

本当に良いお天気で春爛漫です。この甲陽園駅周辺は住宅街ですが急坂で、それでも普通に車や歩行者がどんどん坂道を登り降りしています。私達総勢35名は3班に別れ、他の会の方々と話をしながらスタートしたのですが、直ぐに感じたのは道が急坂です。地元の人達は毎日この坂を登って家に帰ったり出かけたりしているのでしょう大変だなと、つくづく思いながら北山公園ハイキングコース登山口へ向かっていきました。



この北山公園にはボルダーマップがあるほどボルダリングが出来る岩群があります。名前が付いているので、マップの写真を見るのですが、実際どれがどれか私にはサッパリわかりませんでした。ボルダーとは英語で「巨岩」「丸い大きな石」を意味する言葉だそうです。これを道具無しで自然の岩を登るスポーツだそうです。「よくこんな岩を登るね～」と感心しながら進みました。この北山公園は日本のボルダリング発祥の聖地だそうです。

きょうは登山道にはツツジが満開でトンネルになっています。家族連れなど沢山の人が賑わっていました。それから植物園では大きな枝垂桜が満開で他、色んな花を見ては感動していました。花を愛でるのは大変気持ちの良いものですね。

そこから貯水池や甲山方面に向かいます。昼食を北山貯水池でとると、こんどは目の前にある甲山へ向かい、登ります。あまり大きな山ではなかったのでホッとしました。甲山はどこからみても丸いお椀のような形をしたお山でした。

甲山山頂から神呪寺まで下った後は甲山森林公園で休憩です。ここで西宮山岳会の皆さんがお菓子とコーヒーを入れてくださいました。とても美味しかったです。この公園は玄関口から綺麗に甲山がそびえ、噴水が水しぶきを上げていました。小さな子供さんを連れた家族連れが沢山遊んでいます。多分、ここまで車が上がって来ることができるでしょう。

休憩の後は直ぐ近くにある展望台へ行き、大阪方面のビルディングや大阪湾を眺め、その後、仁川百合野橋へ下り関西学院前を通り甲東園駅へ向かいました。駅に着いてスマホを見ると、なんと約28,000歩ちかく歩いた事になっておりました。

低い山々でしたが、中々侮れないコースでした。ツツジも満開で春らしいハイキングを楽しませて頂きました。

この後、西宮山岳会が予約して下さった親睦会会場へ向かい楽しい飲み会になりました。大変疲れましたが、楽しい山行でした。皆様ありがとうございました。

リーダーをして下さった西宮山岳会の方々には大変気を使って頂いて感謝します。



■屋久島 宮之浦岳縦走

●日 程：4月16日(木)～19日(日)

●参加者：L高島 SL尾内 乙坂 喜田

●行動記録：

(18日)：淀川登山口 17:45 発～淀川小屋(18:30 着)

(19日)：淀川小屋 5:05 発～花之江河(7:20 着)7:30 発～黒味岳分岐(7:45 着)7:50 発～
投石岩屋(8:20 着)8:30 発～栗生岳(10:20 着)10:55 発～宮之浦岳(11:10 着)
11:25 発～焼野三叉路(11:40 着)～平石(11:55 着)12:00 発～第一展望台
(13:22 着)13:25 発～新高塚小屋(13:55 着)

(20日)：新高塚小屋 5:05 発～高塚小屋(6:10 着)6:20 発～縄文杉(6:30 着)6:50 発～
大王杉(7:22 着)7:25 発～ウィルソン株(8:13 着)8:20 発～大株歩道入口
(8:40 着)9:00 発～楠川分れ(10:15 着)～辻峠(11:15 着)11:20 発～白谷山荘
(11:50 着)～白谷雲水狭登山口(13:07 着)

◆あこがれの屋久島

喜田

半世紀前、当時住んでいた学生寮の隣部屋の後輩が登山部でした。夏のある日、真っ黒な顔をした彼が「屋久島に行ってきました。」と挨拶に来ました。そして、彼の語った素晴らしい島の自然が私の脳裏に刻まれ、今回の参加につながりました。

【初日】 神戸空港から飛行機、バス、フェリーを乗り継いで屋久島に到着。

空港では虫避けスプレーを没収され、フェリーではリュックが15キロを超えていたので、持参した水を捨てるアクシデントが発生！

港からタクシーで1時間余り走って、高度1360mの淀川登山口に到着。途中、野生の猿と鹿がお出迎え。どちらも本土と比べて一回り小型で気性も極めて穏やかでした。

登山口から1時間足らずで淀川小屋に到着しました。薄暗くなった無人小屋に入ると宿泊者は我々以外に1人だけ。「ネズミが出ます。」との壁紙に・・・(無言)。辺りがすぐ暗くなりましたが、電気がありません。人生で電気と水道のない小屋に泊まるのは初めてで、すごいカルチャーショックを受けました。

【2日目】 朝4時起床、5時出発。この日は宮之浦岳目指しひたすら登りです。

いたる所にシャクナゲの群生があり、5月中旬頃から満開になるそうです。

ある程度の高度になると、地面は大きな岩と笹に覆われるようになります。雨と風が強かったのですが、気温があまり下がらなかったのが幸いしてほぼ予定時刻に4人で山頂に立てました。残念ながらガスで見晴らしは全くありません。そこから下って2泊目の新高塚小屋には14時前に到着しました。

新高塚小屋は縄文杉に近いこともあり、既に複数のパーティーが寝床を確保していました。外が霧雨の為、2階に4人分のスペースを確保して、まだ明るい15時過ぎからシュラフに入りまし



た。途中、やっと明るくなったと思い起きてみたら、まだ夕方の 17 時！人生で 9 時間以上横たわった記憶がなく、病院の入院患者の辛い気持ちがよく分かりました。

【3 日目】 朝 4 時に起きたら 1 階は通路まですし詰め、外の軒先まで入りきれなかった



人がシュラフで寝ています。やはり、無人小屋には早く着いて寝床確保が大事でした。

朝食もそこそこに、ヘッドライトを着けて、山行の大きな目玉である縄文杉を目指します。整備された木道を降りていくと、その巨大な杉は朝もやの中から突然に現れました。それは、樹木というより巨大な岩のようで、枝の先は霞んでいました。周囲に巡らされた 150m 程もある観覧用木道から、何枚も写真を撮って縄文杉とお別れしました。

そこから約 2 時間の下りの間、大王杉、ウイルソン株など有名な屋久杉をたくさん観ることができました。山道を下るとトロッコ軌道の終点です。そこには整備された水洗トイレもあり、ガイドに先導された観光登山客でごった返していました。



トロッコ軌道は、板に滑り止めがあり非常に歩くのが楽でした。途中から北に外れて白谷雲水峡方面へ向かいます。この峡谷は一周り 5 時間の周遊コースとなっており、外国人(欧米系)の姿が多く目につきました。

3 日目の宿は港近くの民宿です。早めに着いたので、レンタカーで近くの公共温泉へ行き、登山の汗を流しました。最後の夜は昼の上で手足を思いっきり伸ばすこともでき、電気と水道のありがたさが身に沁みました。

【最終日】 午前中、レンタカーで大川の滝、トロッキー滝を見て回り、海岸散策を楽しみました。午後は来た時と逆にフェリー、

バス、飛行機を乗り継いで、神戸空港に無事帰りました。

天気は青空で晴れていたのが雨に急変するなど、「年に 366 日雨が降る島」と言われ、苔が地面を覆い巨木が悠久の時を生きる・・・屋久島は私の思っていたとおりの素敵な場所でした。

リーダー、同行の皆さん、山小屋初体験の初心者をご指導していただきありがとうございました。

◆宮之浦岳縦走計画の経験をして

高島

今回の計画をするにあたり、初めて AI を利用して情報を集めた。アクセスは、最近行かれた友人の情報を参考にさせて頂きました。そしてルートを考える時、ヤママップ・ヤマレコの山行記録を読んでコメントで質問して情報を集め、最終的に淀川登山口から白谷雲水狭登山口へと南から北に縦走しようと考えました。自分の思い込みでは、屋久島の登山はガイドさん有りでないが無理ではないかと思っていました。その理由は、山小屋では自炊、シュラフ・マット持参、予備のテントも持参、更には雨天の確率が高く湿度も高く、歩きにくいと思っていただけからです。幸い登山道は分かりやすくヤママップ・ヤマレコがあれば行けると思いました。それで、屋久島の関係者に電話して、その不安を相談すると 4 人ならガイド無しでも行けると言われました。



4人の足が揃い、10kg以上の荷物が担げたら。

そこで、メンバー募集をする際に、その条件を付けさせて頂きました。事前トレーニングとして、京都トレイルで歩いた比叡山縦走を10kgの歩荷で4人の足が揃うか確認しました。

その事前トレでメンバー間の絆も出来、信頼もしあえると確信出来たので、これで本番も行けると思えました。後は天気次第で、エ

スケープルートを考え、状況により宮之浦岳日帰りピストンか、荒川登山口へ下山するかも視野に入れていました。当日は、夜中に大雨で行動時間中は、小雨と晴れ間のおかげで予定通りの縦走が出来ました。神様ありがたいの気持ちでした。

今回の山行経費は飛行機代往復11,000円、高速船往復15,900円、民宿1泊のみ、登山協力金2,000円、現地交通費約10,000円で約50,000円に収まった事が充実度を上げてくれました。

現在の屋久島の山小屋はすべて無人なので無料ですが、アンケート調査で有人化する動きがあります。今回も過去では登山者が少ない時期なのに、ガイドさんが驚くほど登山者が多く、小屋は満杯で、廊下にも、軒下にも寝る人がいました。登山道の整備は、ピカイチでした。

今回の山行では、過去に宮之浦岳に登られた先輩方から多くの助言を頂きありがとうございました。大変心強く色々な準備に役立ちました。

大きな山に行く前の事前トレの大切さも実感しました。今回のメンバーにはその意味が分かっていただけだと思います。そして山の中でも下山後も、協力しあえて感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

■六甲ガーデンテラス(ジンギスカンを食す)

●日 程：4月17日(金)

●参加者：A班 L安田 SL藤本 田中(由) 古澤 松田
村上 森下

B班 L白井 SL上田 大谷 岡田(淳) 佐野
砂川(延) 田中(重)

●行動記録：エクセル東登山口9:15発～石切道登山口
(9:30着)9:40発～ガーデンテラス(12:00着)



◆六甲ガーデンテラスでジンギスカンを食す

森下

春の真っ盛りに私の大好きな八重の桜が満開で車窓からも美しく、今日の六甲山行は石切道からガーデンテラスへ。何回か参加した事のある、ジンギスカンをお昼に食す、この言葉に惹かれ申し込み。JR住吉駅からくるくるバスに乗りエクセル東で下車。坂道の住宅街をぬけ、ここから登山口まで大小のゴロゴロ石にびっくり、以前より石が大きい。ところどころイノシシが荒らした様な気配のところも有り歩きにくい。でも左山側には白い花のシャガが多数群生していて出迎えてくれます。又黄色のヤマブキや濃いピンクのミツバツツジ等いろんなかわいい花が咲きみだれていて心をなごませてくれました。「ガーデンテラスへは」の看板のところ

入念にストレッチ、ゆっくり登り始めます。途中石切道と彫り込まれた大きな石の目印（私はこの石を見るのが好き）この石を右に見てまだまだ先は長いなあと毎回思います。一時間ほどでも歩いた頃でしょうか、胸がしんどいような感じで、何度も休憩させていただき石切場に到着、ああやっとここまで来れたんだと又腰かけてエネルギー補充。ゆっくりゆっくり心は折れてしまいそうになるし本当に長い道のりでした。やっとの思いでガーデンテラスに到着。楽しみにしていたジンギスカンですっかり元気になりました。本当においしかったです。テラスの近くで記念写真を撮り、帰りは20分程の下り道でケーブル駅に着いた。途中もミツバツツジが美しく咲いていてお見送りをしてもらったようでした。

リーダーの安田さんをはじめ皆様には本当にご迷惑をおかけ致し申し訳ありませんでした。呼吸法も教えて頂きましたが平時から練習していないと急にうまく出来るようにはなかなかならずだめですね。いろいろと優しい言葉をかけて頂き心よりお礼を申し上げます。



■八丈島 八丈富士 854.2m・三原山 700.9m

＜ゆっくりリズム＞

●日程：4月19日(日)～23日(木)

●参加者：A班 L中村 SL徳本 泉 笹木 佐野 島谷
B班 L村上 SL藤原 橋本 平石 矢根 山下(永)

●行動記録

(19日)：伊丹空港 10:00 発—羽田空港(11:15 着)12:20 発—

八丈島空港(13:15 着)13:50 発—船見荘(14:00 着)15:00 発

—ビジターセンター・植物園(15:10 着)16:30 発—船見荘(16:40 着)

(20日)：船見荘 8:55 発—八丈富士登山口(9:45 着)9:47 発～お鉢周り分岐(10:45 着)～

山頂(11:20 着)11:30 発～お鉢周り分岐(12:15 着)12:35 発～浅間神社

(12:45 着)12:50 発～お鉢周り分岐 13:05 発—八丈富士登山口(13:45 着)

14:00 発—ふれあい牧場(14:15 着)14:30 発—みはらしの湯(14:50 着)

15:50 発—名古の展望台(16:00 着)16:20 発—船見荘(16:50 着)

(21日)：船見荘 8:55 発—服部屋敷(9:10 着)10:35 発—黄八丈めゆ工房(10:40 着)

11:30 発—足湯きらめき(11:37 着)12:05 発—いそぎえん(12:17 着)13:30

発—空港土産店(13:50 着)14:30 発—歴史民俗資料館(14:40 着)15:40 発—

裏見ヶ滝温泉(16:10 着)17:12 発—船見荘(17:35 着)

(22日)：船見荘 8:50 発—八丈ストア(9:00 着)9:15 発—鴨川林道分岐駐車(9:37 着)

9:45 発～三原山登山口(10:02 着)～無線中継所 10:20 発～山頂手前ピーク(11:



23 着)11:31 発～三原山山頂(11:46 着)～無線中継所(13:02 着)13:09 発～三原山登山口(13:23 着)～鴨川林道分岐駐車(13:38 着)14:00 発一ふれあいの湯(14:30 着)15:04 発一八丈島空港(15:20 着)17:50 発一羽田空港(20:45 着)～泉天空の湯(22:00 着)

(23日): 泉天空の湯 6:10 発～羽田空港(6:30 着)8:05 発一伊丹空港(9:20 着)

◆八丈島 島時間を愉しむ

平石

4月19日(日) 念願叶って八丈島へ

先月、沖縄から帰ってきたばかりに姫路の寒さに負けたのか風邪をひいてしまいました。咳がひどく長引き、なかなか治らず、準備していても行けるかな?と心配でした。山行が近づくにつれて咳もだんだん治まってきたので、行ける、行ける。

当日の朝、うれしくて3時過ぎに目が覚め、少し早いけれどそのまま用意して仲間と待ち合わせの JR に乗り三宮駅からリムジンバスで伊丹空港へ行きました。乗り



継ぎの羽田空港はなんとスケールの大きいこと、広いのには唯々驚きました。羽田から八丈島までは1時間弱です。羽田から乗った飛行機で久しぶりにSさんと席が隣になり、話に夢中になっていると彼女が急に「窓の向こうに富士山が見えるよ!」と。見ると飛行機の窓から遠くに富士山が見えます。まるで童謡に出てくるように、頭を雲の上に出し真っ白な雪をかぶった富士山の頂を飛行機から眺めるなんて初めてです。さすがに “富士は日本一の山” 美しく凛々しい姿に感動しました。

乗り継ぎも良く、あっという間に八丈島空港に着きました。

南の島らしくいたるところに背の高いヤシの木が規則正しく並び、道路の両端はアロエと紫陽花で埋め尽くされています。こちらの特産フェニックスロベニー(通称:ロベ)は生け花の添え葉として国内外に流通、輸出されていて全国の96%が八丈島で栽培されているそうです。

八丈島は東京から南へ約287Kmに位置する伊豆諸島の一部で温暖な海洋性気候の「常春の島」ひょうたん型の島内には八丈富士と三原山が聳え、緑豊かな自然、温泉が点在し、太平洋を望む絶景露天風呂が人気です。夜には満天の星空が楽しめます。そんな八丈島を今日から4日間、3台のレンタカーに分乗して楽しみます。まず八丈・植物公園ビジターセンターを観光して、お世話になる船見荘に向かいます。

4月20日(月) 八丈富士に登ります



朝9時船見荘を出発して今日のお昼ご飯をスーパーで買い、登山口近くの駐車場に3台のレンタカーを止めてストレッチをします。10時登山開始、話で聞いていた通り最初から階段です。階段は苦手、しかも1280段も!高御位山の成井の階段とどっちが多いのかな?と言いながら登り始めると、登山道はきれいに整備されていて端に滑り止め加工されたスロープがあり、登りやすくなっていました。半分のところまで登ると640段の印があり、「やっと半

分や一」と後ろを振り返ると素晴らしい絶景が・・・

美しい八丈ブルーの海が見渡せます。さあ、もうひと頑張りです。

登山口から1時間30分位で頂上です。頂上は直径約500mの大きなすり鉢状のカルデラを擁する絶景ポイントで、火口の淵を歩く「お鉢周り」では360°のパノラマで青い海と島を見渡せます。このお鉢周りは、風がきついと危ないので、中止することがよくあるそうです。ここからお鉢周り組と頂上から浅間神社組に分かれて歩きました。

私たちは、頂上から火口の方に下り、樹木が生い茂る幻想的な火口の中にたたずむ浅間神社の祠がお祀りされているところへ進みます。鳥居の前にたくさんの石が積まれていて、その一つに【高御位山遊会 ゆっくりリズム 2026・4・20 晴れ】と書き奉納させていただきました。



長い階段で合流し、全員無事下山しました。

立ち寄ったふれあい牧場は休業日になっており、休憩だけして“みはらしの湯”に直行しました。見晴らしの湯は、太平洋を一望できる絶景露天風呂が魅力の温泉で全国2位に選ばれた日本屈指の絶景温泉です。

強風が日常の八丈富士、3日間の内いつが一番いいか？リーダーは天気予報を、ずーと見ながら色々悩んだ末、「やっぱり計画通り20日にしよう」とみんなに連絡。

リーダーの決断が的中し、類まれにみる好天で雲無く、風なく、ガスもなく念願の八丈富士を満喫できました。長年の夢が叶って大満足です。ほんとうにありがとうございました。明日は、三原山です。楽しみ！！楽しみ！！



◆初めての八丈島、三原山(東山)から八丈富士を望む

笹木

飛行機が八丈島に降りるとき、ずっと目を奪われたのがきれいな三角錐の八丈富士。島の北部の面積を占めて優雅に孤高にそびえています。その南、対側に三原山(東山)があり、こちらは南半分の面積を占めて台形に連なっていました。

島に降り立って毎日、朝に夕に天気予報と睨めっこ。島の天気は変わりやすく、テレビやスマホで色んなサイトの予報をチェックしながら、いつどの山に登るかを思案。リーダーは三つの部屋を行ったり来たり何度も調整して、三原山登山は最終日に決まった。当初予定していた三日目は朝から風が強く、晴れていると思ったら急にスコールのような雨が降ったりして一日中不安定だった。そんな中でも雨にあたることなく観光地を廻れたのはラッキーだった。最終日の朝は風もなく穏やかに晴れていてこれもまさに登山日和。



三原山への登山口は数か所あるらしいが、昨年10月の台風被害で通れないところがあり、今回は北側の防衛道からのルートを選んだ。無線中継所から山を見上げると大きく垂直に聳えており、あの天辺に容易く登っていけるのかと思ったが、登山道は低い石段でよく整備されていて一段一段上がると確実に天辺が近づいてきた。三原山に登

ることの醍醐味は、開けた視界に八丈富士の美しい全景が望めること。少し登っては街並みと

富士を眺め、また登る。そして又、飛行機が降り立つのを見届けてはまた登る。ホウチャクソウや葎の花があちこち、珍しい花をみつけると「レンズ」でググる。トキワツユクサは見頃、ヤマサギソウらしき花はまだ蕾で定かでない。紫陽花は島のあちこちに沢山あったが開花前でハチジョウチドリは確認できなかった。

尾根上に出ると東南側に連なる尾根が海岸線まで伸びていた。そこから少し下って登り返して20分程で頂上に着く。この辺りではエビネランが咲いていて丁度見頃だった。集合写真を撮って元の尾根まで戻ってそこで弁当を食べた。雨にも遭わず難なく下山。ふれあいの湯で



汗を流しさっぱりして空港に。レストラン「アカッコ」で軽食を摂りながら反省会。山登りも観光も全て計画通りに無事に終えて、羽田行の飛行機に乗り込んでホッと一安心だったのだが、、到着予定時間を過ぎてもまだ空の上。やっと羽田に着陸した時は、伊丹空港への乗継便が離陸した後だった。。

ロビーに集められて、遅れたことのお詫びと振替便の案内と補償の問題あれこれを怒りを抑えて聞いた。振替便は1時間後の関空便か、明朝の伊丹便か、関空に22時頃着いても帰宅は困難と考え明朝の伊丹便に意見がまとまった。さてそれからが大変だった。泊る所は直接手配してくださいとのことで、自分たちで探すことに。しかし、空港周辺で12人泊れるところは簡単にはみつからない。さんざん聞きまわって結局24時間営業の温泉スパで過ごすことに。岩盤浴、レストラン、土産物で補償額いっぱい利用して、殆ど眠れずに一夜を明かし、明朝8:15発の伊丹便で帰路に着いた。

最後の最後に試練が待っていたけどこれもまたよい勉強になったと思おう。一週間経った今もまだ夢見心地だけど、10数年前に八丈島に来られたMさんが、あの時から時間が止まっていると言った言葉が印象に残っている。それほどゆっくり時間が流れていた島で4日間、皆さまと共に楽しい時間を過ごさせていただいたことに感謝しています。有難うございました。

■竜山(山歩き教室)実技-1

●日 程：4月26日(日)

●参加者：L 徳本 SL 藤原

[サポート] 砂川(延) 西脇 春本 安田

[教室生] 浅田 竹林 田中(純) 中岡 福永 三宅 柳本 和田

●行動記録：高砂総合体育館(9:00着)9:10発～登山口(9:30着)～竜山(9:40着)9:55発～生石神社(10:30着)～宝殿山(10:45着)10:50発～生石神社(10:55着)11:00発～高砂総合体育館(11:05着)

◆山歩き教室 実技1回目の竜山

浅田

初めての竜山は、不安もありましたが、何よりも天気恵まれ、眺望を楽しむことが、出来ました。

さわやかな風の中 新緑に包まれ、いろいろな色のヤマツツジ、珍しいナンジャモンジャの木に目が癒されました。

また、いろいろな山に挑戦して癒されたいと思います。

リーダーをはじめ皆様、ありがとうございました。



◆高御位山遊会での初登山竜山にて

竹林

自然いっぱいの中々に囲まれて、遊び育った私がまさかこの歳になり登山に興味を抱き登山クラブに入るなんて思ってもみませんでした。

昨年秋に、登山の番組をみて一人でもいつでも気楽に出来る「いいかもな」って軽い気持ちで手始めに低い山を探して高御位山に登りました。

頂上に着いたとき瀬戸内海の海、澄みきった青空新鮮な空気をいっぱい吸って改めて自然の良さを感じ満喫しました。

そんな折今年の高御位山遊会の募集記事を目にして「初めての登山に選んだ山が高御位山何か縁があって入会しろよ。」って誘われた気分で思い切って入会しました。

この度登山教室の実技で「竜山」への登山に参加しましたが正直最初は、「近くの低い山。周りから見てもさほど大したことないけど、初めての集団登山だから参加してみよう。」とあまり期待せずに参加しました。

会長、役員をはじめ入会した皆さんと出発、登り始めるとこれまでの単独と違って集団での登山という初体験からワクワク感を感じながら途中で疲れも忘れ登り進み頂上近くに出たとき、山一面に咲く紅色、紫色の山つつじを目にして、「凄〜い綺麗や、青空にマッチしたこれやこの景色やな、登山っていいな〜」と最高の気分を味わっていました。



登山途中に「ジャイアント馬場の顔岩」「観瀉処」「生石神社の浮き石」等々登山だけでなく史跡を知る素晴らしい本当に有意義な登山となりました。

私は今回の登山に参加して、皆さんと共に伝統ある高御位山遊会の一員となり感謝しつつ改めて、山に登る人もいろいろ、山もいろいろな顔を見せて楽しませてくれることを実感しながら既に峠を越えた人生ですが、下山するまでゆっくりマイペースで安全に頑張りたいと思いました。皆さんありがとう、そしてこれからも宜しくお願いします。

■五蔵山(ゴゾウザン)(790.8m)

●日 程：4月28日(火)

●参加者：A班 L尾内 SL黒本 木村 笹木 佐野 仲田 春本
B班 L白井 SL島谷 上田 徳本 中村 松本

●行動記録：宍粟市役所8:00 発一駐車場(ストレッチ)(8:35着)～池王神社(8:50着)～駐車場9:00 発～林道終点(9:45着)～分岐(10:17着)10:20 発～岩谷山(10:35着)10:50 発～分岐(11:00着)～松ヶ崎山(11:40着)11:45 発～五蔵山(昼食)(12:20着)12:55 発～駐車場(14:45着)14:55 発～宍粟市役所(16:00着)



◆宍粟50名山35番目の山五蔵山を目指して

仲田

宍粟の山に登りたいと思って参加しました。新緑のさわやかな天候に恵まれた登山日和でした。

宍粟市役所駐車場に集合で参加者は13名で3台の車に乗り合わせて五蔵山登山口まで走行する。

到着後リーダーの号令の基で山行の案内、今回は通常の案内掲載コースの反対まわりで、まず山ヒル対策をしたあと、近くにある池王神社を参拝した後、岩谷山へ向かって登ることになる。

45分程歩き、林道が終わると杉林が多く整備された歩きやすい登山道が続くがところどころで急な斜面や上り坂などがあり、また細い尾根などを歩く。その後展望が良い処で休憩した後、岩谷山(732.3m)に到着する。

弥治郎谷山(751m)から松ノ崎山(781m)と登山道を歩く。途中急斜面がところ処ありで分岐点から五蔵山(790.8m)へ到着するとお昼頃なのでお弁当を食べる。そして記念写真撮って下山へ向かう。

今回の「メイン」であるシャクナゲの見物ができる“シャクナゲコース”を通る。山道は急斜面が多く登山道においてはシャクナゲの花が綺麗に咲き乱れ目を楽しませてくれました。下山の際は、急激な斜面が多くメンバーの皆が声を出し合って注意しながら何とか無事に下山が出来たようであった。その後、車3台に分乗して市役所駐車場まで戻ってきて解散となりました。

宍粟の山に登るのに山ヒルの対策を案内で言われていたので心配していたが出くわす事がなかったので良かったなあー。リーダー方ならびにメンバーの皆様お世話になりありがとうございます。お疲れ様でした。



■カヤマチ山 748m ー石楠花が見たいー

- 日 程：5月2日(土)
- 参加者：A班 L中村 SL藤本 泉 植田 笹木 佐野 安田
B班 L高島 SL木村 田坂 西川 松田 宮川
- 行動記録：播州トンネル入口9:05 発～播州峠登山口9:10 発～船坂峠分岐(10:20 着)
10:30 発～下山分岐(12:07 着)12:20 発～カヤマチ山山頂(12:55 着)13:10 発
～726m山頂(13:40 着)13:50 発～カヤマチ山山頂(14:15 着)14:30 発～下山分岐
14:46 発～国道出合 15:40 発～播州トンネル入口(16:05 着)

◆カヤマチ山、急登の先で石楠花に出会う

宮川

『石楠花が見たい』という素敵な山行タイトルに惹かれ、わくわくしながら今回の山行に申し込みました。

あとになってかなりの急登があると聞かされ不安になりました。しかも山行予定の前日は雨で強風が吹き荒れる悪天候でした。どうなることかと心配しましたがなんと当日は快晴で絶好

の登山日和です。メンバーのどなたかの日頃の行いがよかったのでしょうか。とても恵まれた気候のもとで山行の日を迎えることができました。

集合は多可町の杉原和紙の里道の駅に9時。姫路の西の端から同乗させてもらい2時間かけて向かいます。

前日の雨と地形の影響からか山間の方は霧がたちこめていてまるで雲海のような幻想的な景色を見ることができました。

山行参加の皆さんも乗り合わせて集合し、道の駅のきれいなトイレを借りて準備を始めます。

ヒルが出るかもとのことでスパッツを装着し、リーダーの中村さんにヒルよけのスプレーをふってもらい4台の車に分乗して播州トンネル入口まで行きました。

ストレッチをして、いよいよ播州峠登山口から登山開始です。

覚悟していたとはいえかなりの急登です。初めのうちはワイワイお喋りしながら登っていましたがだんだん無口になり息を切らしながらゆっくり登っていきます。それでもピンクのリボンがきちんと結んであり下からも登山ルートが見えるので、次はあのリボンまで一気に登るよとの高島さんのアドバイスを受け前向きな気持ちで進むことができました。

傾斜があまりにも急なので45度はあるかなあと話していたら、田坂さんがスマホの角度計(コンパス)で測ってくれました。実際の傾斜は37度でした。それでもかなりの急な坂です。何よりスマホで登山道の傾斜も測れることが面白いと思いました。



登山道では多くの杉の木の子打ちが施されまっすぐ伸びて、ほどよい日照があり心地よい環境を作ってくれています。足元も落ち葉が積もっていて前日の雨で滑りやすいですが、ふかふかで足には優しかったです。トレイルランのコースでもあるようで、こんな山道を走る人がいるの?とびっくりでした。

登りが続くと次は下りが待っています。私は下りが苦手なので少し緊張しながら歩を進めていきます。

ありがたいことに激急で足場が不安定なところにはロープが張ってありました。

下りではロープを持って後ろ向きに降りていくことを教えてもらいました。はじめは恐々でしたが慣れてくるとロープを握ってリズムカルに下ることが楽しくなりました。ただロープがないところは自力で降りるしかなく必死です。足先に力を入れて滑らないように下っていきませんが2回、3回と滑ってしまいました。あちこちでも「ぎゃあー」「いたっ!」と声が聞こえます。皆さんも悪戦苦闘しているようです。ふかふかの濡れた落ち葉なのでそれほど痛くはないですがお尻が濡れてしまいました。

カヤマチ山の山頂にはまだたどり着きませんが12時も過ぎているので、途中の切り株がたくさんある開けた場所でお昼休憩を取りました。食料・水分補給をし元気になって山頂を目指します。30分ほどでようやく到達。山頂付近はなだらかですが展望はまったく臨めませんでした。カヤマチ山山頂の726mプレートの前で集合写真を撮ってもらい一息つきます。

石楠花の群生地にはまだ30分はかかるとのこと。往復1時間か…と思いましたがせっかくだここまで来たので頑張らなければ!貴重品だけ持ち荷物を置いて向かいます。重いザックがない分少し楽でしたがまたも急な登り下りの繰り返しでした。すこし平坦な道になり見上げると石楠花の枝が密集して足元には無残に散った花びらたちが…。きっと最盛期ならこの枝が綺麗なピンクのトンネルになっていたのでしょうか。その景色を見たかったなと少し残念な気持ちになります。さらに進むと山の斜面に淡いピンクの花が見えてきました。その先の斜面にも石楠

花が咲いています。急な斜面なので近くに寄って写真を撮ることもできません。でもその先の手が届く場所に美しい石楠花が咲き誇っていました。ようやく今日のハイライトです。ここまで頑張ってきた甲斐があり嬉しかったです。

目的の石楠花に会えて満足して下山しますが、また急な坂が待っています。時々『ケーン』という鳴き声が聞こえてきました。野生の鹿がいるようです。またイノシシが泥浴びをするぬた場も見られました。

道標のリボンも見えず、薄暗い山の斜面をひたすら下っていきます。こんな山中にもし一人残されたら絶対に下山できないだろうと怖くなりました。

倒木もあり、土砂崩れの跡もありました。以前は木を切り出して運び出していたのですが今はほとんど人が入っていない道ようです。

せっかく植樹をして育てても外国産の安い木材が入ってきて放置されてしまっているのでしょうか。これらは今の日本の林業が抱える問題点のような気がしました。

黙々と疲れた足を引きずって降りること約1時間半。ようやく明るくなり林道が見えてきました。

見上げると藤の花が優しい紫色で垂れ下がり、スマレが足元でひそやかに咲き、ミツマタの花が咲いているのにも出会えました。もう少し早い季節なら可憐な淡い黄色い花が満開だったことでしょう。『杉原和紙の里』の名前の通り和紙の原料になるミツマタがあるのに納得しました。林道を歩き、車が走る播州トンネルの中の歩道を約1キロ歩いてやっとのことで出発点のトンネル入口まで出てくることができました。ほんとうにしんどかったですが、全員無事に下山できたことにほっとしました。

しっかりストレッチをして道の駅まで戻って食べたアイスクリームが絶品でした。

ベテランのメンバーの方々がしんどいコースやったねと言われるのを聞いて、初心者の私がしんどくて当たり前、ついて行けただけで良かったと心から思いました。



綺麗な花はあちこちで見ることができましたが、最盛期にはそう簡単に会えないのだとわかりました。この山行を計画し石楠花に会わせてくださったリーダー中村さん、いろんなことを教えてくださった参加メンバーの皆さん、安全運転で送迎してくださった方々、お世話になりほんとうにありがとうございました。

■旧高砂町散策

●日 程：5月4日(月・振休)

●参加者：L砂川(延) SL森本 池田 西川 林 待場 野村 安田

●行動記録：文化会館 9:00 発～梅ヶ枝湯(9:20 着)9:25 発～旧国鉄高砂駅(9:30 着)9:35 発～十輪寺(9:40 着)10:00 発～申義堂(10:05 着)10:15 発～魚町倶楽部(10:30 着)10:35 発～高砂神社(11:00 着)11:20 発～旧工楽邸(11:30 着)11:50 発～三連倉

(12:00 着)12:05 発～商工会議所(12:10 着)12:15 発～銀座商店街(12:20 着)12:30 発～高砂地域交流センター(12:40 着)13:10 発～文化会館(13:30 着)

◆旧高砂町内散策

池田

今回の山行は旧高砂町内散策である。鹿島神社から高御位山へ登る！いろいろなルートでの登頂は多くの皆様に知られている。江戸時代の初期から続く町割と港湾、いまだに残っている古民家風家並みは、城下町整備で武家地、町人地を分ける際に町割が実施されたと言う。京都の区画整備されたものと同じ様な短冊形の整然とした町場が形成されていて「うなぎの寝所」と



も言われる。この度高砂町内を案内された方は観光協会の方と高御位山遊会元会員の方がガイドでした。道中町内を説明されていても当時その方をご存知の方が居られて話が弾んでいた。高砂のメイン道路の両サイドには本日の祝日の国旗が電柱に挙げられ、この部分だけは別世界に来た様な感があった。印象的なのはお寺が横一列に続いておりその中の「十輪寺」は兵庫県の重要文化財、高砂市指定文化財に指定されるお寺であった。敷地が広く先祖代々のお墓が納められていた。町内散策をしていると今までにない日本の異文化を感じる。江戸時代にタイムスリップした様な気分になった。伝説の「梅ヶ枝湯」は昭和18年創業で戦前から残る風呂屋である。表はモルタル壁の渋いシンプルな建物。

気になるのは裏の顔が表と外観が変わり今も尚営業されている事に驚きであった。私の町内には大中遺跡があり町外から兵庫県立資料館に沢山来られて嬉しい限りである。高砂の江戸時代からの見事な武家屋敷に感銘を受けた。機会があればまた散策に出向いてみたいと思った。企画していただいた役員の方に感謝します。ありがとうございました。

